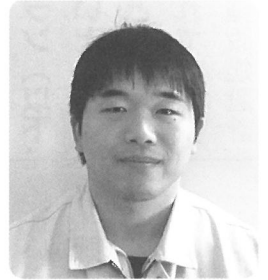
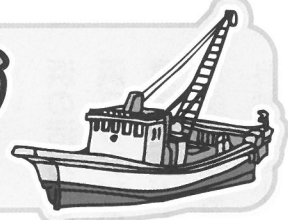




何でも魚^{うお}ツチング

No.86 『 がんばっていきます! 』



はじめまして。自己紹介が遅れましたが、平成26年度採用で4月から山形県水産試験場で働いている齋藤哲（さとる）です。生まれは山形県村山市で、庄内に住むのは今年度が初めてとなります。まだまだ分からない事ばかりで、ご迷惑をお掛けしますが、どうぞよろしくお願ひします。

私は主にサケ・サクラマスを担当しています。そこで今回は、私の仕事の一つである、サケの回帰予測について紹介したいと思います。

水産試験場では、毎年サケの回帰尾数を予測し漁業者のみなさんにお知らせしています。その予測方法について簡単にですが説明します。

ご存じのとおり、サケは川で産まれて海に下り、北洋を回遊しながら大きく成長して産まれた川に帰ってきますが、帰ってくる年齢は2〜7年魚まで様々です。

しかし、帰ってくる年齢の割合には傾向があり、4年魚で帰ってくる割合が高く、次いで3年魚か5年魚といった様子です。そのため、その年の3年

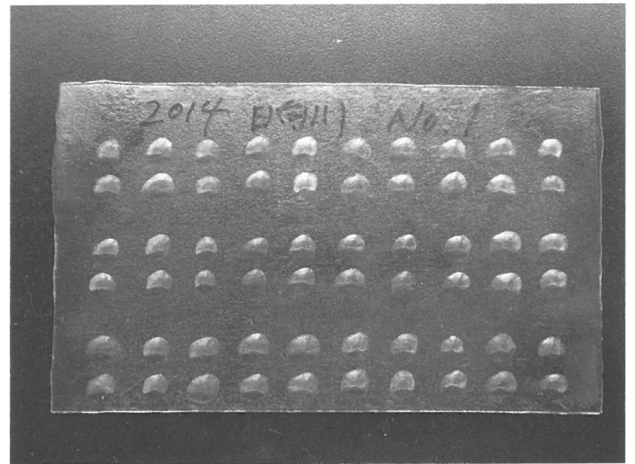


図1 サケの鱗レプリカ

魚の尾数が分かれれば次の年の4年魚の尾数が、4年魚の尾数が分かれれば5年魚の尾数がおおよそ予測出来ます。

そこで、予測に必要な不可欠なのがサケの年齢査定です。

サケの年齢は鱗から読み取ります。鱗のままでは見づらいため、鱗から型を取ってそれを観察します(図1)。

鱗には年輪があるのですが、その年輪が重なって太く見えるところ(図2の矢印部分)の本数+1がそのサケの年齢となります。つまり、写真2のサケは4年魚ということになります。

何万尾と回帰してくる全てのサケを査定することは出来ないのです、県内10



図2 サケの年輪

河川の採捕場にお願ひして、ある程度の尾数の鱗を採取して頂き、その査定結果をその河川全体の割合として扱っています。

そして、その査定結果をもとに河川ごとの年齢別尾数を推定し、次年度の回帰尾数を予測します。

以上、簡単になりましたが、私の仕事の1つであるサケの回帰予測の内容でした。

働きはじめて1年が経とうとしています。まだまだ知らない事ばかりです。日々勉強しながら、山形の水産のために頑張っていこうと思います。

水産試験場 浅海増殖部 研究員 齋藤 哲

● 着てくれの～ 命を守る救命胴衣